

第2回倉吉市総合戦略推進委員会 議事要旨

日時：平成28年10月5日（水）10：00～12：00

場所：大会議室（市役所本庁舎3階）

【資料】

資料1 平成28年度 総合計画ヒアリングシート

1 開会

※出席者：福井委員、中山委員、山脇委員、桑原委員、荒瀧委員、吉田圭委員、吉田孝委員、田村委員、安田委員、竹尾委員、山本委員、尾崎委員、岩世委員、山田委員、廣谷委員、川村委員、石村委員、宇田川委員

欠席者：多田委員、松田委員、山下委員、栗原委員、加藤委員、名越委員、桑垣委員、田中委員、大江委員

2 今年度各施策の評価を今後の施策展開

資料1について、各部長、課長から説明を行った。

3 意見交換

吉田孝委員	資料1 ページ目の雇用について、ヒアリングシートの中で聞きたいのが3番目の右のコメント欄に「平成28年6月現在7社の企業誘致に成功しており、雇用者数が235名」となっている。この235名の内訳は正社員なのかパート・アルバイトも含まれているのかという事が知りたい。
田中産業環境部長	企業誘致の補助金があり、ここに当たる人数というのが補助金の対象になる人数ということになるので、基本的には正規雇用、またパートでも一定以上の数、フルタイムでのパートタイムの基準を満たしている部分についての人数という事になっている。
吉田孝委員	何が言いたいかというと、企業誘致をこれからもどんどん行っていく中で正規雇用でないとヒアリングシートの問題点にもあがってきている高卒者の離職率に続くものも出てきているのではないかと。安定した所得、雇用を掲げている中で今後やるべきことは企業誘致もよいが、その中で安定した所得を達するためにはやはり正規雇用というところをこれからも誘致企業に求める必要があるのではないかと。
田中産業環境部長	企業誘致を行う場合、基本的に進出協定等を結ぶが、そこに雇用者数の目標を掲げさせてもらっている。先ほど説明した通り正規職員に準ずる一定数の勤務時間を有するという対象にしているため、正規職員あるいはフ

	<p>ルタイムの職員の雇用を進めていきたいと考えている。当然企業側にも福利厚生等の充実を要望したいと思っている。</p>
山脇委員	<p>私が気になったのは、サービス業の有効求人倍率が2.0以上という事で景気が良さそうに見えるが、これは特に介護の現場がそうなのかと思うが離職率が高くて求人倍率が上がっているという事はないのか。</p>
田中産業環境部長	<p>当然あると思う。サービス業については離職率が高いと聞いている。こちらの職業については7月で2.23倍ということでこれについては当然あると考えている。ちなみに介護サービスについては独自に数字が出ており、これについても同じくらいの約2倍近い求人という事。福祉関係あるいは介護関係の離職率の高さというのは産業部門だけでは解決できない部分もあるので、福祉部門や県の厚生労働部局、国の厚生部門との制度と関係するものもあるので、改善等については意見を出し決定していきたい。</p>
山脇委員	<p>国全体でこの問題は検討されているというニュースはよく流れるが、特に倉吉市として何か施策とか調査を行うという事はあるのか。</p>
涌嶋福祉保健部長	<p>介護の件について、いわゆる介護報酬が低いという事はずっと言われている。確かに他の市町村や他業種と比べても低く、労働も相当ハードであり、言われるように離職率が非常に高い。なかなか手がないのも現状。当然、市としても介護報酬引き上げの要望はずっと行っている。介護報酬自体を決めるのは介護保険制度の中で成り立っている。介護保険制度というのは皆さんの保険料と国、県の交付金で成り立っており市の一般財源を入れるというのは出来ない制度のため、市としてその軽減を図るという事は困難で、やはりそこは国等でもう一度介護報酬の引き上げという事を図ってもらいたいという要望は引き続き行っていく。</p>
宇田川委員	<p>雇用の場の確保というのは倉吉市だけでなく中部全体の何十年にもわたる最大の課題だと思う。現実的には雇用がないことで若者が流出して地域の活力が失われるという負のスパイラルの元凶のようなもの。その中で、平井知事も一生懸命やっておられるが、問題は企業誘致をすると市の持ち出しが莫大なものになるということ。当然地域間競争のため一定の優遇策を出すと県も市も含めて持ち出しの部分が莫大になる。</p> <p>もう一つは、仮に製造業を単町や単市で誘致したとしても、現実的に高度な技術が必要と考えて、問題は人材が集まるのかということがある。倉吉では関西の方からモリタ製作所を誘致などいろいろあったが、やはり私が経済界から聞いている声としては、地場産業の育成にも合わせて力を入れてもらいたいという声が多いのは事実。ここでも問題は離職率が平均よりも高いという事で、そうすると民間の場合、安定所得が必要になるので経営者側の努力も当然必要になってくる。かなり難しい問題も含んでいるがどちらにして</p>

	<p>も単市だけというよりは、県と連動してやらないと雇用の部分というのは解決できない問題はあるので、やり方はいろいろあるがそれも含めて推し進めていかないと今後が厳しくなるのではないかとというのが率直な意見。</p>
田中産業環境部長	<p>企業誘致に対する補助という事で、基本的に倉吉市の補助というのは県と協調してという事となる。ここ数年は地域間競争ではないが倉吉市においては短縮分についての補助率を上げ、来てもらうようにしていたが、そうは言ってもなかなか財源の問題もあるので、昨年補助金の額は少し下げさせてもらった。ただし県が推進している医療分野あるいは航空分野、自動車部品分野等については特例を設けて補助金の上乗せとしているので、県が力を入れている部分については市としても一緒にしていきたいと思っている。</p> <p>離職率の関係については、マッチングがうまくできていないという部分があるということで就職情報の提供ということがあり、企業側の人材の研修というのが不十分ではないかという分析をしている。企業側もそのような時間がないという事を言っておられるので、こちらにも何とか力を入れていきたいと思っている。</p> <p>地場産業について、当然この補助金というのは市外からの融資ではなくて地元の企業に対しても補助をしているのでそちらについては市外からの誘致企業と同じようにさせていただいているという状況。</p>
岩本企画振興部長	<p>前回は地場産業の育成に企業の促進や経営相談の在り方について収斂されるどころだと指摘があった。中山委員が前回このようなことをおっしゃっていたがどうか。</p>
中山委員	<p>前回申し上げたように、やはり誘致企業も大事だが地元で税金を払っていただく地元の企業の育成が一番大事だと思う。時代と共に企業も栄枯盛衰があり事業を高齢のため辞めていく企業も特に中部では多いが、そのような企業がある中で若い芽というか、起業しようと考えている方にチャンスを広く大きくしていく支援が必要だと思い前回意見を述べさせてもらった。そういった情報や起業家の方を育てていく事を公の役所や銀行や民間等いろんな機関が連携して支援ができればと思う。</p> <p>取引先を回っている中で製造業でも一部かもしれないが人手が足りなく人材を海外に求めているという声も聞いている。そういった需給のミスマッチもあると思うのでその辺りの情報の企業との連携や市民への情報提供も必要だと思う。</p>
田中産業環境部長	<p>総合的な地元企業、あるいは新規に起業される方の応援の体制の構築だが、これは総合戦略においても非常に要望の強い所。今現在いろんな形で分散している部分はあるのでいかにそれを有求に結びつけるかというところが課題だと思っている。商工会議所あるいは県、もちろん金融機関、行政等がいかに</p>

	に連携していくかという部分について力を入れていきたい。
山本委員	<p>企業の成長に銀行の役割というのは非常に大きいですが、いろいろと見させていただくと倉吉市の企業誘致については全国的に先駆けて企業誘致をやっているなという印象。ただし、全国市町村ともに強烈的な補助を出して企業誘致をしている現状の中で、そこを差し置いてやっていくべきかというのは私の中では先ほどの中山委員と同じように地元企業の育成の方に力を注ぐべきではないかと思っている。</p> <p>ただ、地元企業の方と話すとなりの部分が非常に話の中で出てくる。地域産業というのは地域で暮らしていくうえで必要な企業ばかり。地元で根ざした企業というのは魅力があろうがなかろうが必要とする企業が今あるわけで、その中で必要とされる人材をどう確保していくかという事が大切。</p> <p>Uターン率が非常に悪いこの地元の中で、Uターン率を上げる施策は必要だが、もう一つは高校生を含めた就職率をどう確保していくかが重要。具体的に言うと高校生も含めて地元の企業をどこまで知っているのかが一番で、中小企業、零細企業というのは自分たちで発信する力がない。例えば従業員が5人しかいない企業が就職説明会に参加できるわけではない。しかし実はそこで働きたい人がいるかもしれない。行政が中心となり、高校生、大学生が集まって企業を知るような全国にない就職説明会イベントみたいなものを夏休みなどにイベント的に開いてもらおうと非常に楽しいことができると思う。そして大企業でも中小企業でも零細企業でもそういったところに参加して高校生と触れ合う事で働きたいという意欲が湧いてくるという事が一つ出来ると思う。</p> <p>もう一点は、業種によってかなり有効求人倍率が違うが、やはり観光が倉吉の一つの特徴だと思っているので宿泊、観光施設、飲食、そういったところはしっかりと力を入れるべき。例えば、私立の高等学校や専門学校に対して地域の歴史や観光を教えること、また語学も教えることによって高校を卒業してすぐに就職ができ、即戦力になるような人材を作っていく、そういったところを供給と共に作っていくような事を出来たらと思っている。</p> <p>目指すビジョンは、より多くの若者たちが倉吉に住み続けたいというビジョンなので、帰ってくる方も必要だが出さない工夫というのが雇用の部分で出来るのでは。もちろん銀行も頑張らないといけないのは当然だが、意見と要望を述べさせていただいた。</p>
田中産業環境部長	<p>大企業やある一定規模の企業については会社の案内をするという事はあると思う。確かに小さい所についてはそういう職場を見るという事は今までなかった。全体も高校生を対象としての例えば就職企業向けという事業はやっているが、具体的にその企業に応募してどんな事をやっているかという事</p>

	はなかった。今ご意見いただいたのでこれについては検討させてもらう。
岩本企画振興部長	続いて、子育て分野についてご意見をいただきたい。
石村委員	先ほど子ども食堂の事を言われたが、日頃高齢者の相談の仕事をしているので、最近サロンとかをリーダー的にしている高齢者の元気な方から「子ども食堂の事を聞いたが私たちでもやれるだろうか」という相談を受けた。現在の倉吉市の子ども食堂は貧困の子どもたちへの食事支援や母親が集まっての交流が目的だと思うが、現状やこういった形で広げていけるものなのか教えていただきたい。
種子課長	<p>子ども食堂について、最近はテレビや新聞でも取り上げてもらった。実は倉吉市は県内でもとても進んでいて、民間で既に始めておられるのが上井のアゲハさん、明治町のテラハウスさん、9月の終わりに始められた夢創さん、この3か所がすでに開設している。もう1軒が11月オープンを目指して越殿町で旧仲倉医院を使って始められるという事で現在4か所は確認ができています。</p> <p>倉吉市社会福祉協議会を中心にこの4つの個人・団体がお互い連携を取ってやっていこうということで会を持たれ、それが新聞に取り上げられた。その話の中でも思いや目的がそれぞれ違うところがある。</p> <p>アゲハさんは親子での会話をしっかりとやってもらいながら将来的には学習の支援も取り組んでいきたいと考えておられる。</p> <p>テラハウスさんはどちらかというと居場所であり食事をした後でもそこで交流をしていく、宿題をやったりしてそれを地域の高齢者も含め一緒に賑やかにやっていきたいという思いを持っておられた。</p> <p>夢創さんは現在昼の営業をしているところを夕方から夜に向けてといった形で親子での居場所という事で取り組んでいきたいという思い。</p> <p>もう1軒、これから11月に始められるところについては子どもの居場所もだが地域の高齢者との交流も図っていきたいという事で取り組んでおられた。</p> <p>それぞれ思いはあるが、この子ども食堂については子どもの貧困と最近よく言われるが生活困窮者の特にひとり親家庭が、負の連鎖、貧困の連鎖と言われるが、そういった環境で育った中でまた同じような環境になってしまうという状況が見られるので、まずは生活習慣をきちんと整えるという事で特に食生活を支援していこうと全国的にも動きがある中で、倉吉市内でも民間の動きが盛んに始まっている。始められるにあたってこちらでも相談を受けた。手続き的な事、例えば保健所などの手続きをした方がいいのかという事など。施設を整備される、食事を作られる環境を整備するうえでの手続き</p>

	<p>的な事、それから食材などを提供してくださる方もあるのでその辺は社会福祉協議会が窓口になるので人の支援等含めて一緒にやってくれるボランティアの方をどういう形で集めるかという事も個別に話を聞いて進めている。</p>
石村委員	<p>回数的なものはどのようになっているか。</p>
種子課長	<p>だいたい月に1、2回ということで曜日を決めておられる。出来ればいろんなところに行ける機会があればいいということで、それぞれの曜日を調整したりできるといいというような話をしたところ。</p>
石村委員	<p>いろいろな高齢者のサロンへ出かけるので伝えたいと思う。</p>
山田委員	<p>放課後児童クラブが以前不足していた地域があったが、今年度はだいぶ改善されたと昨年度末に聞いている。改善後の現状がどうなったかという事が聞きたい。</p> <p>また、県の男女共同参画推進認定企業という制度があり総合戦略にも書いてあるが、企業側がどのように増えていったのかというデータがあれば教えてほしい。特に雇用関係でいうと西部に非常に活気があるイメージがあり認定企業も子育ての条件をよくしないと人が来ないという状況もあり、どんどん認定を受けている。中部、倉吉はどうなのか。</p>
種子課長	<p>放課後児童クラブは小学校が終わった後、共働き等家庭で保育が出来ない家庭に向けて放課後の居場所づくりということで取組を進めている。現在倉吉市内は19の放課後児童クラブがあり、公立が7、私立が12。私立については市内の社会福祉法人又は地区の社会福祉協議会等に委託してお願いをしている。今年度、西郷と上灘の人数が増えているとの事で新たに新設しスタートしている。</p>
美船課長	<p>男女共同参画推進企業の状況だが、現在市内で71社の企業が認定を受けている。詳細については担当部局が来ていないので申し上げられないが、認定を受けている企業は主に建設業、コンサル、という事で入札参加資格のメリットがある、インセンティブが働いている実態がある。</p>
山田委員	<p>美船課長からインセンティブが働いている、加点があるという報告があったが、本来で言うと、どの企業においても子育てをする女性、男性を含めていい人材を集めたいというところからするとそういう趣旨で持って施策を講じて認定を受けてもらいたいので企業側でも努力をしてもらえたらありがたい。</p>
桑原委員	<p>こども食堂があるのは知っていたが、いつしているかという情報が入ってこない。市から子育て世代の私たちに情報発信をしているのか。</p>
種子課長	<p>先般の話し合いの中でもどういう形で情報発信したらいいのかという話が出ていた。本当に必要な方のところへ届ける事が出来たらいいという思いとあまり狭めず広く来てもらうのがいいのかという意見もある。出来ればいわ</p>

	<p>ゆる生活困窮者、ひとり親家庭の子どもたちが孤食で、自分一人で食べているとか本当にまともに食べられていない状況を何とかしたいという思いをもってやられている方にとっては、そこに情報が行くといいのかなと思いつつも、そこだけに限らず広く来てもらえればいいのではという思いもあり、それぞれの思いが違うのでどういった形として発信していくかという事については引き続き会の中で話し合っていくことになっている。また、市が出来ることは取り組んでいくという話をしている。</p>
岩世委員	<p>こども食堂について補足説明になるが、説明にもあったアゲハさんとテラハウスさんがこども食堂に取り掛かりたいと言ったときに相談を受けたことが何度かあり、一方で社会福祉協議会さんも興味があるという事とどういう形で支援がしていけるかという事を是非ヒアリングを行いたいと、数回仲立ちをさせていただいた事がある。その中でアゲハさんはひとり親家庭、貧困対策のみではなく、とにかく働くお母さんと子どもたちが1分でもコミュニケーションをとって美味しいなと言いつつながらご飯を食べる時間を提供したいという思いがあり、テラハウスさんはひとり親家庭と貧困という事を考えたときに少しでも応援をしたいというそれぞれの意図や目的が違う部分があった。</p> <p>ただし2か所についてそれぞれが悩んでおられたこともいくつかあり、一度に知られてしまうとキャパの問題もあり対応できるかどうかという問題は常に問題点として持っておられると思う。これはマスコミを通じていろんな形で知られていくが中傷や売名行為ではないかというそういう横やりということも現実には受けておられ、そうなるらと続けていくという事での問題点が出てきている。予めわかったうえであるかもしれないと思いつつも勇気を出して始めたが、やはり足を引っ張るという状況も現実にはある。ただし何よりも親子の幸せを優先に頑張つて続けたいと言つておられる。</p> <p>知つていただきたいがキャパの問題と先ほどのような問題というのがある中で現在模索しているので、それを行政がどのようにカバーしていくかはとっても大きなことなので是非取り組んでいただきたい。</p>
岩本企画振興部長	<p>三者協議も含めてまだ入り口に立つたところなので、その情報を私も含めて指摘のあつた事についてしっかり協議できるようにしていきたい。</p>
田村委員	<p>山田委員がおっしゃつていたが、子育てワークライフバランスなどの重大さは私もしみじみ感じており、鳥取県のキラリと輝く女性会議やイベントを開く会議などが鳥取県でもかなり進められている。その中で、最近湯梨浜町でイクボス宣言をした企業が何社かあるという事を新聞でみさせていだいた。倉吉市でも是非イクボスの研修、セミナーを増やしていただき仕事上で</p>

	の意識を変えてもらえるような研修をしていただけると大変ありがたい。
岩本企画振興部長	市内でという事か。
田村委員	県は県でやっているが県と連携してもいいと思う。倉吉市もそういった部分を湯梨浜町もピックアップしてどんどんそういう企業を増やされている努力をされている中、倉吉市さんの訴えかけなどもしていただいたら相乗効果があっていいと思う。
吉田委員	今度10月22日にイクボス関連のシンポジウムが開かれるようになっていいる。たまたま私がパネラーとして出席するようになっていいるのだがそれらの広報はされているのか。
岩本企画振興部長	<p>詳細は承知していないがあまり日にちがないのできちんと広報出来ていないのであればそれに努めるようにさせていただく。</p> <p>イクボスの件については、2つ局面があり市役所を職場の一つとして進めていくかという事と市内の事業所にそういう事を啓発していくという2面があると思うのでそれについても男女共同参画を人権局が持っているので私のところで調査、検討していきたい。</p>
桑原委員	大阪から倉吉に移住してきて、子育て環境はすごくいろいろ充実していると思うが、子どもを産んだ時点で「〇〇ちゃんのお母さん」「〇〇くんのお母さん」という風にママとしてという事がとても強調されるが、一人の人として人間としてあまりなかなか友達ができない。ママ友というのは多いが本当の友達かどうかというところまでになるまでがなかなか難しいというところがある。それは大阪に住んでいてもそうなのかもしれないが、大阪に帰ると高校からの友達や昔からの友達がいるので子育てしながらもほっとするところもあり、倉吉でも子どもを置いていてではないが1対1の人間として友達との触れ合いや関わり方がママ同士でも出来るような場はあるのか。
山脇委員	公共の場としては多分ないと思うが、民間でグループ的にママたちが遊べる場というのはちょこちょこ市内でも出来てきているような話は聞いたことがある。
岩世委員	<p>山脇委員の話に続いて民間のちょこちょこというのは、例えば30代の女性がそれぞれ起業するという事で勉強を始めて少しずつ例えば古民家、あるいは自宅を改築してランチタイムだけ開放して集えるようなものをする。自分たちで例えばフェイスブックで「今度こういう事をします」「フリーマーケットをします」ということで情報発信をして、来られる方は来てくださいとかたちで活動されているところが中部ではちょこちょこある。</p> <p>詳しい情報は後程情報交換が出来ればと思うが、その方たちはほとんど行政の支援は受けてなく自力で頑張っているが、実際生の声を聞くと支援があ</p>

	<p>ればもっといいのというような声が出ている。行政にはその情報を追いかける努力はしてもらいたいと思う。一方でサロンでは子どもが遊べるスペースもちゃんと設けてお母さんたちが全く知らない間柄でも少しずつ、倉吉弁で言うとそろそろ知り合っていくという実績というのはあると思う。恐らく、やろうかなと思っていて頑張っている女性の何人かは山脇委員のところにも相談へ行かれた事もあるのではないかと思うがそういう場所が少しは出来てきている。</p>
竹尾委員	<p>先ほどから情報が欲しいという声が出ているが、資料2ページ目の最後の今後の政策展開で、ポータルサイトの設置という風に謳われているがこれは誰がどのように設置して管理していくのか、行政だけでこのサイトを運営していくのか、それとも専門性を持った方がこのサイトの作成に参加するのか教えてほしい。</p>
種子課長	<p>特に子育て支援の情報というのがやはり生まれる前から育っていき、学校に進むまでということになるとかなり幅が広く、行政内部的に言うと様々な部署が関わってくるため、その辺をどうまとめて発信していくかという仕組みとそれを誰がやっていくのかというところはまだ内部で検討しているところ。まだ具体的な話まではできないが、何とかこれをきちんとやっていかないと届けるべき情報がきちんと届いていないという声を聞いているので何とか取組を進めていきたいと考えている。</p>
竹尾委員	<p>折角なので桑原委員も仲間に入れていただいて、要は移住されてきた方の意見というのも大切にしていってほしい。</p>
岩本企画振興部長	<p>市だけで企画すると誰も見てくれない、形だけはできたけど為につくみたいなことになってしまうので総合戦略の大きな課題としてはそういう事も含めてトータルで広報ベタをどう克服するかというところ。そこについては企画振興部も一緒になって共通の課題として認識しているので、どういう形にすればどういう形で情報の欲しい人に的確に届くのか、それも良い情報として届くのかという大きく2つあるのでそこはしっかり検討し、29年度には方向性を出せるようにしたい。それは子育てだけではなくトータルでしていく事が大事だと考えている。</p>
田村委員	<p>9月に全受診ができる集団検診に行ったがすごい人だった。全部受けようと思ったが定員オーバーにより却下されたものもあった。本日再度挑戦して高城公民館に受けに行ったがそこでもすごい人だった。こんな便利な世の中なのに何ともストレスがすごく溜まる受診だろうと思ひ、もう少し変えられるだろうと感じた。最近マスコミでもがんに対する話題が多く、若い人から高齢者まで検診を行っているが回数が少ない分、人がたくさん集まり却下されたり受診が出来なかったり、そもそも病院でも全部受けられるところがな</p>

	<p>い。そういった医療機関がない事のわびしい所もあり、行政がもう少しテコ入れしてもらえれば大変助かると思う。また、受けようと思ったきっかけが全国保険協会から通知が届き、全部受けられる機会があるという事で行ったのがきっかけ。そういったきっかけを促すために、例えば私は商工会議所に入っているが個人なので大きい会社の様に集団検診が企業を回ってくるという事が出来ないのどついつい漏れてしまっているところがうちのスタッフも含めてあるので、そこを商工会議所なのか商業の会なのかはわからないがそういったところからもプッシュできるよう健診を促すようなプランが出来ればもっと受診に繋がる。受診をする体制をもう少し良くしてほしい。</p> <p>今度また16日に市役所で予約の受診が出来るようだが、それも回数が少なく、その時に予定があって行けないとなると次は12月ですごく空いてしまう。それは医師不足なのか何が不足しているのかわからないが、受診を勧める割に体制が整っていないということを今回改めて知った。受診車の近くで待っているが待っている間すごい排気ガスを吸い、これも体に悪いと思うなど初めてで慣れていないからよくわかることがあった。</p> <p>しかし、おばあちゃんとかは「今回も受けられてよかった」「こうやって来てくれて助かる」という声も聞こえてきたりするのでそこも大事にしながらいろいろアイデアを絞っていきたいと思っている。</p>
<p>涌嶋福祉保健部長</p>	<p>言われる通り受診に関して、例えば体育文化会館などでは予約制ではないため多くの方が行かれ、確かに検診項目ごとに定員が決まっているので受けられないという状況がある。何とか受けてもらえるように努力はしているが、これは保険事業団に委託をして行っているため、前年の実績とか倉吉だけに手厚くというのなかなか出来ないで、回数を増やしたり地区公民館に向いたり、あるいはある程度の人数がまとまれば自治公民館単位でも出ているところはある。その中で何とか回数だとかを増やす努力をしている。</p> <p>行ったけど受けられなかったという事に対して、予約制の検討もしているところだが、予約していたが急に行けなくなったなど整理がついていない部分もあるので検討し考えていきたい。</p> <p>また、受診率が低い健康マイレージのように受けた際にポイントを付けて商品関連に繋げていこうという考えもある。出来れば皆さんの意見が欲しいのでいい案があればどんどん教えてもらいたい。</p>
<p>山脇委員</p>	<p>受診率が低いというのは出ているが、年代別などの統計データは取っているか。</p>
<p>涌嶋福祉保健部長</p>	<p>だいたい掴んでいるところはある。</p>
<p>山脇委員</p>	<p>例えば60歳以上と働き盛りなど、20代30代みたいなのがわかる</p>

	か。それによって施策が変わってくると思う。高齢者の方が受診しないのはなぜか、働き盛りの人たちが受診しないのはなぜか、細かい対策を打った方が効果はあるのではないかな。
涌嶋福祉保健部長	本日はデータを持ち合わせていないが、年代別や地域ごとにもどこが高くというのとは掴んでいるところはある。データ分析もしているが施策に結びついていないところもあるので引き続き研究していく。
岩本企画振興部長	受診率が低いのは低いなりに原因がしっかりあるというご指摘をいただいた。検診の受診率の低さというのとは共通認識で持っているため改善の努力をするようにしたいと思う。
荒瀧委員	資料2 ページ目の乳幼児の虐待人数が9人というのが衝撃的で、この虐待された9人はお父さんお母さんどちらか。多分この前の死亡事例はお父さんだったと記憶しているがその他はどうだったか。
種子課長	今データを持ち合わせてないので詳細はわからない。
荒瀧委員	子育てに不安を持っているという事で訪問されたりすると思うが、訪問するときは多分小さい子どもを持っておられるお母さんの方に訪問していると思う。お父さんも一緒に訪問時に相談という事もしているか。
種子課長	<p>出産前から出産後も保健師、その後に倉吉市独自で保育士も訪問したりして、その際には当然お母さんもだがお父さんがいらっしゃるときは一緒に話を伺うようにしている。</p> <p>昨年の死亡の事例で言うとケアが必要なケースではなかった家庭。ケアが必要なケースかどうかをしっかりと気を付けて見るようにしていくと、このような対象のケースが増えてきたというのがこの数字の表れになっているので今対策を打っている。</p>
荒瀧委員	子育てに不安を持っている市民の割合については、アンケートで出していると思うが、アンケートに答えているのは圧倒的にお母さんの方が多いのでは。自分も子育てをしているがやはり不安は持っているし、もしお父さんだけのアンケートを取ったとしたらどれくらい不安に思っておられるのか。ここにおられるお父さん方も不安だと思う人が少ないのではないかな。子育てに不安を持つのは近くにいる母親の方が圧倒的に多いと思うが、その母親を出来たらお父さん方が支えてもらえたらという気持ちがとてもある。そうなることイクボスということもあるし、ずっと私が自分の家庭だけで考えているだけだが「お父さんを早く帰せ」というのが持論で、お父さんがすごく長く働いて一人だけで核家族で、おじいちゃんおばあちゃんがいればまだいいが、お父さんが早く帰って一緒に子育てするという事であればワークライフバランスも取れるし、夜遅くまで帰って来ないのはその時点で母親は不安になってしまうのでそこも市役所の方で食い込んでもらい、「早く帰れ」ではなく両

	<p>方とも働いていたらお互いにスイッチして今日は私、今日はお父さんがというような形が出来ればいいと思っている。市の方でどうして欲しいという事ではないがそこら辺も考えていただけたらと思っている。</p>
岩本企画振興部長	<p>貴重なご提案をいただいた。縦割りの中では福祉と産業環境と分かれていてその企業の連携であるとか総合戦略という一つのところで意識し役割分担しながら何かいい形で事業展開出来るように宿題として受け止めさせてもらう。</p> <p>続いて「婚活・移住」についてご意見をいただきたい。</p>
福井委員	<p>私からは意見とざっくりとした提案を3つさせてもらう。</p> <p>地方創生というのは住んでいる人が自分事になりまちの課題や問題やまちの未来を考える、そして認識してアクションを起こしていくというのが理想だと思う。(東洋経済)安心度全国1位に倉吉市は3年連続でなっている。ですが何が安心なの? どういうこと? とか安心度全国1位を知らない方が沢山いらっしやる。安心度が何か知らない人もいる。そのため、市民全体で自分事にするきっかけをどこかでつくる必要があるだろうと思っている。その中で新たな問題がわかる。また、高齢化が進み人口が減少する、人口が減少したら自分たちの暮らしはどうなるのかというところを見える化して認識していく必要がある。やはり行政だけでは難しく地域の協議会だけでもだめ。そういうひとつの最近流行のフェイスみたいなものを1年かけて来年の10月から11月に共有できるフェイスを倉吉にもここ何年かで頑張っている移住者さんがたくさん増えたので、その移住者さんがこういう事をやっているとか活動していると事を盛り込んだり、ゲストの人に講演いただいたり何か全体で盛り上がりになるようなきっかけや自分事にしてもらえような集会を作って欲しい。1年かかろうが2年かかろうが必要だと思っている。</p> <p>次に、地域づくり支援課と一緒にサポートの活動をしているが、最近は更にサポートに力を入れていく必要があると感じている。大阪、東京に出かけて相談会に参加するが、やはり来てくださいというよりも来た人がどんな暮らしでどんな笑顔で暮らしているかという事を僕たちがやらなくても今それこそフェイスブックなどで発信されているのでそういう口コミはかなり強い。それは僕たちがここ1年2年やって実感している。ますますそういう寄り添うというサポートが大切になってくる。お試し住宅に寄り添うような活動を行っているのは倉吉市くらい。だから結果が出ている。もっともっと力を入れていくところがあるはずなのでまた改めて提案させていただく。</p> <p>最後に、例えば東京都とダイレクトなホットラインみたいなものを考えてみるのはどうか。東京都は大きいがなぜするかというと最近学生団体のいくつかと交流を持っていてかなりの数が縁もゆかりもない都市に興味を持ちイ</p>

	<p>ベントをしている。実際Uターンは少ないが、自分の生まれ育った地域をこよなく愛するようなサークルが出来始めている。そういう時代に乗っ取ったこれから未来に向けて、そこに目を向けて戦略を作っていくことも必要。東京都と鳥取県は当然のようにしているが、倉吉市と東京都というのは面白い視点なのかもしれない。資金も必要だが可能性があれば。</p> <p>最初の話に戻るが、特にお年寄りというのは市報と地区の広報紙、NHK、日本海新聞を大事にしておられる。そのためメディアとの連携は大切だと思う。みなさんがツイッターやフェイスブックをやっているわけではないので紙媒体も両方大切。内からと外からの目を持って戦略を立てていく必要があるのではないか。次年度から本格的な地方創生に向かうのであれば移住定住の視点から私の意見としてこのように思っている。</p>
<p>宇田川委員</p>	<p>移住定住について、私は何回も東京・大阪に住み、大阪では倉吉市という関わってきた。やはり外に出て全体として先ほどの住みよさランキングではないが倉吉は本当に住みよい良いまちというのが率直な感想。当然課題もあると思うがコンパクトにまとまっているこの地域というのは非常に魅力的。では倉吉がこれからどういう方向に進んでいけばいいのか、何に力を入れたらいいのか私個人の感想では広域観光、いわゆるインバウンドと移住定住ではないかと思う。これはいろんなものを踏まえながらの考えで、今度8日にも大阪のシティプラザで鳥取コラボカフェがあるが、倉吉市は毎月参加でこのセンターの方に聞くと優等生と言われている。倉吉市は関西に事務所があり所長が毎回出ておられ、やはりこういう取組をしっかりと続けていく事が大事だと思っている。移住定住や観光というのは、この地域を磨くことに繋がるといういろんな面でプラスアルファが出てくる。ただ当然そうなるに関西などから人を呼び込まなければいけないが、現実的には倉吉はまだまだPR不足、それは否めないと思っている。人口減など地方を巡る課題はたくさんあるがやはり広域観光、もう一つ移住定住というのはこれからもどんどん力を入れていただきたい。</p> <p>どちらかという、企業誘致よりも移住定住の方に力を入れていただけたら少しはまた違う倉吉の切り口が出てくるのではないか。</p>
<p>岩本企画振興部長</p>	<p>福井委員もおっしゃる通り、入口部門で誰を対象にどういう事を届けるかというところがまだまだ弱い。宇田川委員がおっしゃったように機構等と一緒に説明会等には積極的に参加させてもらうようになった。ここ1年2年、この間日本海新聞でも褒めていただいたが、皆勤賞というかたちでいただいた。ただそこは全部ある内の一つの入り口であり、いろんなかたちでいろんなところの人たちの移住を希望する確率が低い人から高い人を含めてもっと的確に情報を出していかなければいけないと思っている。それぞ</p>

	<p>れの一貫として、先ほど福井委員がおっしゃったカフェ、あるいは東京、首都圏等との連携、情報出しというのはこれから頑張っていかなければいけないし、宇田川委員がトータルでおっしゃっているプロモーション不足も含めて解決する必要がある。</p> <p>ありがたいことに移住定住チームというのは桑原委員や福井委員のご協力もいただいて県内でも非常に高い評価をいただいている。一回お客さんとして交渉したら、しっかりとものにするというところでそこは良いチームだと評価をいただいている。それは人柄だったり地域の魅力であったり総力戦でやらせていただいている。ただ先ほど言ったように、出来ていないのは誰に対していい事をやっているかという事を伝えるかというところが出来ていないし、来られた時の受け皿として皆さんがリタイアされて悠々自適の自給生活をされる方ばかりではないので、勤め口はどうなのか、子育て環境はどうなのか、というところがどう揃っているかが弱い。真ん中は強いが端と端が弱い。そこを一貫して強化していかないとなかなか難しいという課題意識は持っている。そういう意味で言うと、職業として選択の幅を広げるという意味で企業誘致だけではないが、産業が元気になることは大事だと思っているのでそこは連携してやっていきたい。ご指摘いただいたところをしっかりと29年度以降事業化させていく事が必要だと思うので、是非具体的な提案をいただければ事業化に繋げていきたい。</p>
<p>廣谷委員</p>	<p>空き家バンクについて、登録数が大変少ないという事が出ている。冒頭でもあったように今年倉吉市の自治公民館連合会でも全町区で取組とアンケート協力をさせてもらった。その中かなり町内の館長さん方がこの家は空き家バンクに登録してもいいかなという数値は出ていたが、市があとはやりますからという事で話があった。その後、こうして見るとやはりまだまだ希望に対して大変少ない。あるいは市の方と空き家の持ち主さんだけの話し合いだけではなくて、地元の館長なり知り合いの方等に、この家はいいよという様な事がもしあれば相談いただければ話にも行かせていただきたいという館長さんもおられたのでその辺りも一緒になって空き家バンクを増やしていきたい。</p>
<p>安田委員</p>	<p>観光をきっかけに移住したいと思う方もいらっしゃると思う。最近だとひなビタ♪をきっかけに20代くらいの若い世代の方が全国から倉吉に何度も来られるという事がある。そういう方の声を聞いていると、「住みたい」とか「働くところないですか」とよく聞かれる。お店の方もよく相談を受けると聞いている。しかし、私たち観光関係者や地元の市民の方は移住定住の事を知らないという事があるので、もう少し観光なり土蔵群の店舗さんとかがそういう情報がわかればサポートが出来て、移住したいという半分くらいの気</p>

	持ちがもう少し本気の方に引き寄せられるのではないか。
竹尾委員	<p>私もそう思う。外国人から見た日本はすごく優れた国と言われている。東京、大阪、都市圏からこの鳥取県、安心度、暮らし度1位とかよく言っている。しかし、住んでいる私たちがこの倉吉の良さを知っていない方がほとんどで当たり前だと思っている。そのためにファシリテーターの育成が欠かせない。若者にしてもお年寄りにしても県外の方々から倉吉ってどんなところがいいのと聞かれたときに説明できない倉吉の人柄。ここが一番へたくそなところだと思う。私も倉吉に住んで30数年経ち倉吉が大好きで今良い所をどんどん探しているろんな方に発信しているが、まずはこのファシリテーターの育成、安田委員も言われる通り良い所はあるのに発信が下手。更には日本海新聞さんにも取り上げていただいた安心度1位は実はこの地方紙だけ。これが全国にその良さが発信されているかといったらそうではない。というところが自己満足で終わっている。良い所をもっと発信していかなければいけないがこの発信の仕方もある一方通行。勝手に自己満足で発信したらそれで終わり。それを県外や海外の人が見たときにどう思っているか聞く耳を持っていない。そこがだめなところ。</p> <p>いいところをどんどん肉付けしていき更によくして行かなければいけないのに自己満足で終わってしまっているのが一番発展しない原因。そういう物事ひとつ作るにしても専門家だけを集めるのではなく、最大限のボトムアップが必要。トップダウンというのは昔の日本の社会であり、今必要とされているのはこのボトムアップ。ニーズをどれだけ活かせるかを取り入れていかなければいけない。総合トータルで見て冒頭岩本部長の説明にもあった通り、発信が苦手なこの倉吉市をもっともっといいものにしていくためにしていかなければいけない。</p> <p>もう一つ付け加えると、先ほど婚活の話が出てきたが、これも対象者を見てみると県内や中部地区だけの人かなと思ってしまう。何でもっと県外の人とかにどんどん声をかけないのか。このキャパの中でどう取り合いしても倉吉市から北栄町に行く、湯梨浜町に行くだけで変わらない。これが受け入れてくることによって人口がどんどん増えていくのに。どうイベントをするなら県外にもどんどん発信していただきたいし、海外にも発信していただきたい。先ほどひなビタ♪の話があったが、やはりいろんなイベントは連携していけないといけないと思う。鳥取県、倉吉市みんなベクトルがバラバラ。同じベクトルで物事を進めていかないとあれもこれもいいなと思うと全部に手を付けようとする悪いところがある。例えば倉吉市なら3つに絞りこれをみんなで共有していきましょうというやり方をしないとまず町おこしは変わっていかないだろうと思う。贅沢せずにもまず足元を見つめて出来るところか</p>

	らスタートしてもらいたい。
岩本企画振興部長	お二人のご指摘でそれぞれ各分野の内容をどうプロモーションするかということだけではなく、トータルですると市役所全体としてコーディネートすることになると思う。そこは企画振興部の役割になるので、そこと合わせてありがちな縦連携ではなく横連携ということを含めて課題として認識させていただき29年については、その辺の対応をしっかりとさせていただきたい。弱い所のダメ出しで外だけではなく内部の人材育成も足りないのではないかとこの事もありましたのでそこも肝に銘じて改善していく。
中山委員	移住に関して、空き家対策というのが非常に重要だと思っている。空き家バンクの登録の前段階で資料にある今後の施策展開にもあるように空き家の実態を調査し考えておられるかもしれないが、空き家対策というのは移住の受け皿という攻めの部分と空き家を放っておくと家が劣化しまちが衰退してスラム化する状況になり兼ねない。この旧市街地の空き家を整備することでまたこの市街地が蘇るといふことにも繋がってくると思うので、是非空き家対策には力を入れていただきたい。空き家バンクの前段階という事で、例えば空き家の管理だとか、空き家の掃除をしたり空気を入れ替えたりという手を加えないとなかなか維持できないと思うし、その後にはリフォームしたりというような、空き家ビジネスという言葉も生まれていて県内でもこの空き家ビジネスに参入しようとしているような話も聞いたりする。そういった支援も含めて空き家対策をしっかりとさせていただいて移住定住の受け皿やそれが観光に来られる人の宿泊施設に利用というような次の展開にも繋がるといふので是非力をいれていただきたい。
岩本企画振興部長	ご指摘があったように二面性があり危険なものと資源にするものとをどう両立させていくかということで建設部と企画振興部が一緒になってやらせていただいている。企画振興部的に言うと空き家を移住定住と絡めてという事であると自己所有される場合についてはいくらか補助はさせていただいている。課題なのは家を借りられる際に、借りて出るまでの主体が大家さんなのか借りる人なのかはっきりしないところがあり、そこが手が薄いところでもあって課題。そこは移住定住チームとしっかり話をしてどこが隘路になって進まないのかということとそこポイントがあるのであれば手を入れていくような事は必要な対策を考えていく。
岩本企画振興部長	今日いただいた各分野についてそれぞれの事業が進捗するような方向性の確認や各事業が進めるような的確な事業や施策を打ち出して29年度整えるという事。トータルとしては各分野に共通するがどうプロモーション、PRしていくかということとしっかりとしていかないとだめという指摘をいただいた。

	<p>次回委員会ではこういう形を考えているという、結論ではないかもしれないがこういう事をワンステップ上げるために予算等を考えて出来るように近づけていきたいという事も含めて出来るだけ具体的に説明させていただきたい。</p> <p>皆様からのアイデアやご提案は委員会開催時とは言わず、いつでも教えていただければと思っているため、何かあれば事務局まで。</p>
--	---

4 次回の開催日程

11 月末 開催予定

- ・ 11 月末には予算要求が大詰めになっており、その頃には来年度の事業計画としっかりと立てて、改めて推進委員会でご説明させていただく。
- ・ さらに要求期限前に開催させていただくため、ご意見・ご提案をいただいて、来年度事業に反映していく。